

10章 スプレッドシートに記載の顧客リストに、Gmailでメールを自動送信しよう

スプレッドシートで顧客リストを管理したり、顧客リストをもとにGASでメールを自動送信する方法を学びます。

🕒 40分 📄 印刷 印刷

- GAS (Google App Script) の概要を理解しよう
- スクリプトエディタと拡張メニューの使い方を理解しよう
- GASの制限事項を理解しよう
- スプレッドシートを操作しよう
#1 SpreadsheetApp クラス、Spreadsheet クラス
- スプレッドシートを操作しよう
#2 Sheet クラス、Range クラス
- 種類の異なる変数をスプレッドシートで自動書きしよう

10.1 本章の目標

- 本章では、以下を目標にして学習します。
- スプレッドシートで顧客リストを管理すること
 - 顧客リストをもとにGASでメールを自動送信すること

8章では、GASを利用した基本的なGmailの操作方法を学びました。今回は、実際にGmailを使った業務を自動化していきます。

10.2 完成形と作業手順を確認しよう

まずはどのようなものを作るのか、完成形と作業手順を確認します。

完成形

本章では練習として、スプレッドシートで管理されている顧客リストに対して、メールの自動作成と自動送信を行います。

本章で作成する成果物の完成形のイメージは、以下のとおりです。

顧客リスト	
名前	メールアドレス
侍 太郎	t.samurai@example.com
山田 花子	h.yamada@example.com
佐藤 一郎	i.sato@example.com
鈴木 次郎	j.suzuki@example.com

自動送信

作業手順

作業手順は以下のとおりです。

- 顧客リストの用意
- スプレッドシートとGASの紐付け
- GASスクリプトの作成

それでは、次章から順番に説明します。一緒に作業を始めてみましょう。

10.3 スプレッドシートに顧客リストを用意しよう

マイドライブに作業フォルダ「Gmail用」を作成し、その中に「顧客リスト」という名称のスプレッドシートを作成します。シート名は「連絡先」とします。



シートには、顧客リストで管理する情報として以下を記載してください。表に記載の名前とメールアドレスは、コピー&ペーストしてOKです。

名前	メールアドレス
侍 太郎	t.samurai@example.com
山田 花子	h.yamada@example.com
佐藤 一郎	i.sato@example.com
鈴木 次郎	j.suzuki@example.com
(自分の名前)	(自分のメールアドレス)

また、メール自動送信が実現できたことを確認するために、顧客リストに自分の連絡先情報（名前とメールアドレス）を1つ追加しておいてください。

	A	B	C
1	名前	メールアドレス	
2	侍 太郎	t.samurai@example.com	
3	山田 花子	h.yamada@example.com	
4	佐藤 一郎	i.sato@example.com	
5	鈴木 次郎	j.suzuki@example.com	
6			
7			
8			
9			
10			

10.4 スプレッドシートに紐づいたプロジェクトを作成しよう

10.3章で作成したスプレッドシートに対して、プロジェクトを作成します。

スプレッドシートの「拡張機能」>「Apps Script」を選択します。



すると以下のように「無題のプロジェクト」という名称のプロジェクトが、自動で作成されます。



この自動作成された myFunction() の中にメール自動送信スクリプトを書いていきましょう。



10.5 Gmailでメールを自動送信するスクリプトを書く

ここでは、メール自動送信スクリプトを以下の順で作成していきます。

- シートの取得
- メールアドレスの取得
- メールの作成
- メールの送信

(1) シートの取得

紐づいているスプレッドシートを取得したので、メールで自動送信したい顧客リストが書かれているシート「連絡先」を取得します。



(2) 名前とメールアドレスの取得

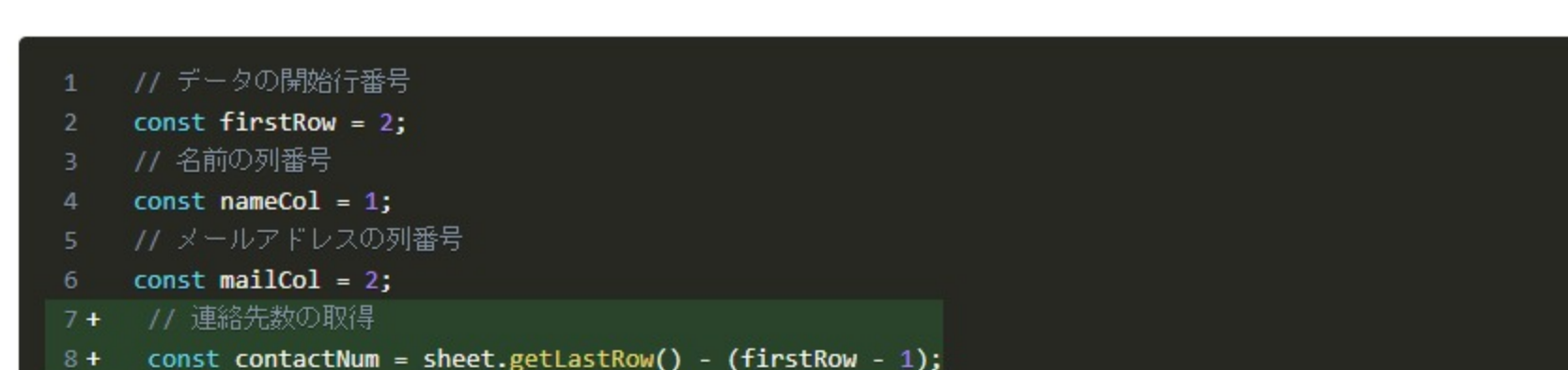
	A	B	C
1	名前	メールアドレス	
2	侍 太郎	t.samurai@example.com	
3	山田 花子	h.yamada@example.com	
4	佐藤 一郎	i.sato@example.com	
5	鈴木 次郎	j.suzuki@example.com	
6			
7			
8			
9			
10			

今回のシートでは、2行目から連絡先データが入っているので firstRow に2を指定します。



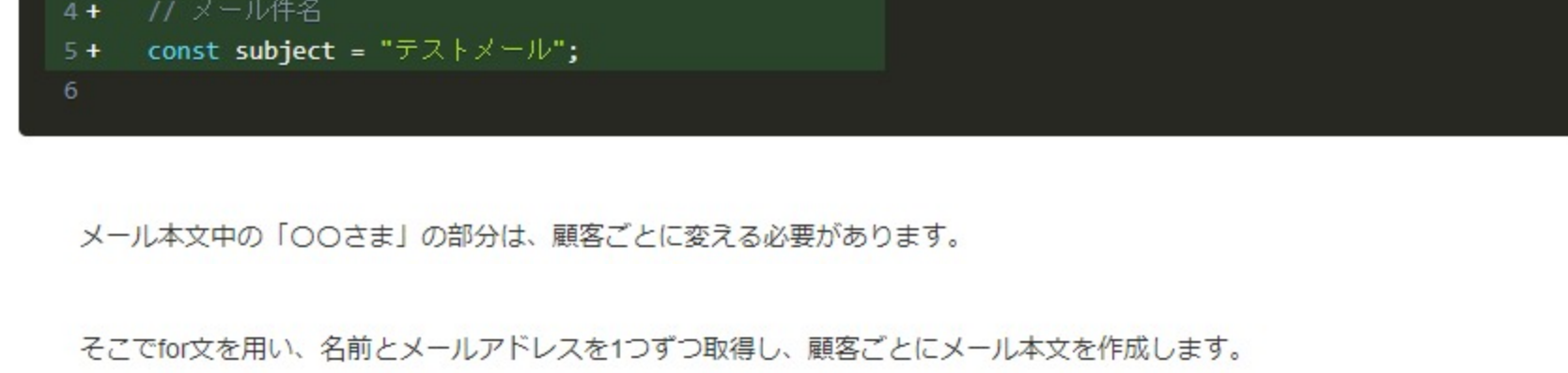
	A	B	C
1	名前	メールアドレス	
2	侍 太郎	t.samurai@example.com	
3	山田 花子	h.yamada@example.com	
4	佐藤 一郎	i.sato@example.com	
5	鈴木 次郎	j.suzuki@example.com	
6			
7			
8			
9			
10			

また、名前はA列にあるので nameCol にA列を意味する1を指定します。



	A	B	C
1	名前	メールアドレス	
2	侍 太郎	t.samurai@example.com	
3	山田 花子	h.yamada@example.com	
4	佐藤 一郎	i.sato@example.com	
5	鈴木 次郎	j.suzuki@example.com	
6			
7			
8			
9			
10			

さらに、メールアドレスはB列にあるので mailCol にB列を意味する2を指定します。



次に、連絡先数を取得します。今回は、シート内でデータのある最終行番号を取得できる getLastRow() メソッドを用います。

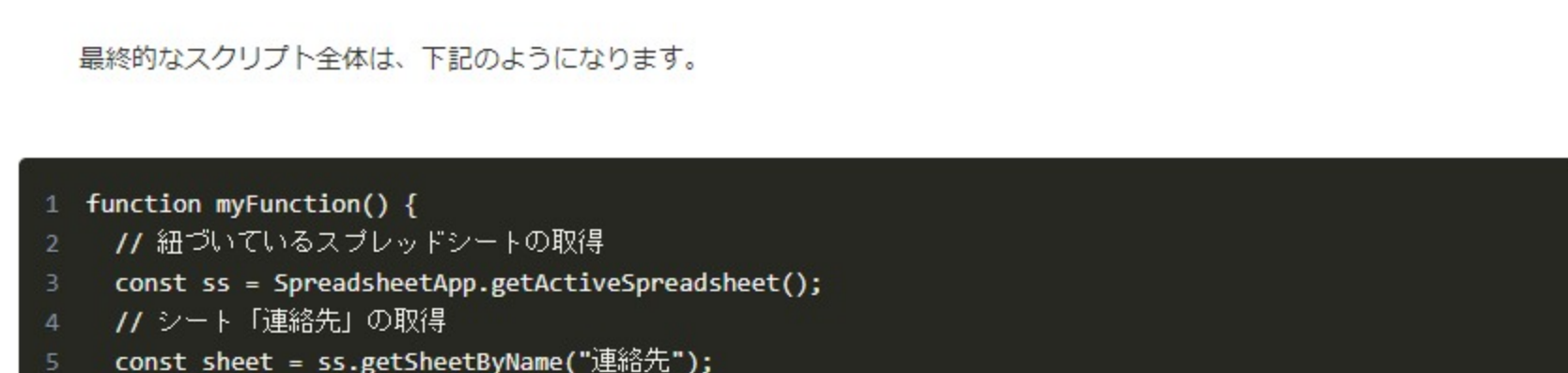


(3) メール作成

まず、今回送信したいメールの内容を確認します。

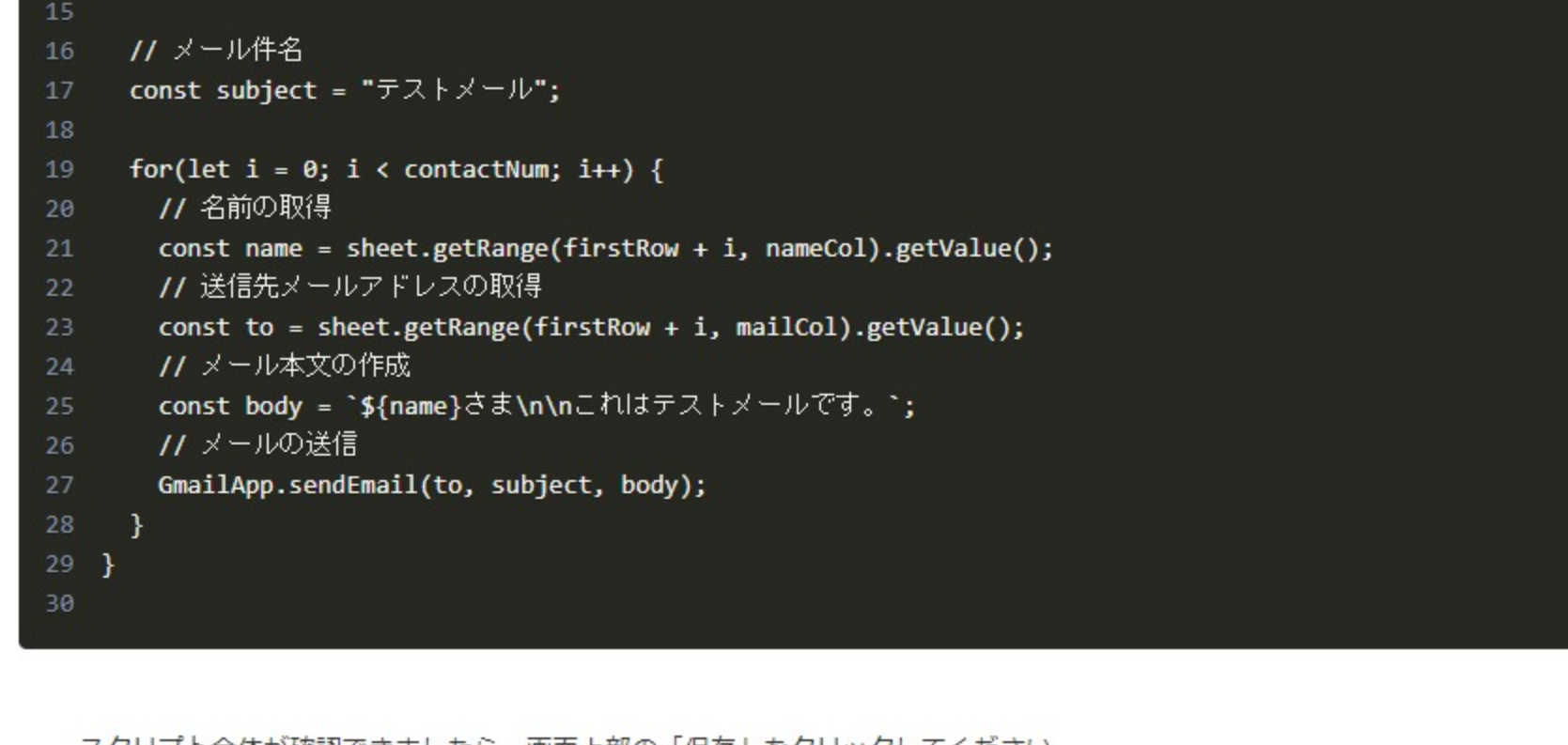
項目	内容
メール件名	テストメール
メール本文	〇〇さま これはテストメールです。

メール件名はすべての送信先で同じなので、以下のように実装します。



メール本文中の「〇〇さま」の部分は、顧客ごとに変える必要があります。

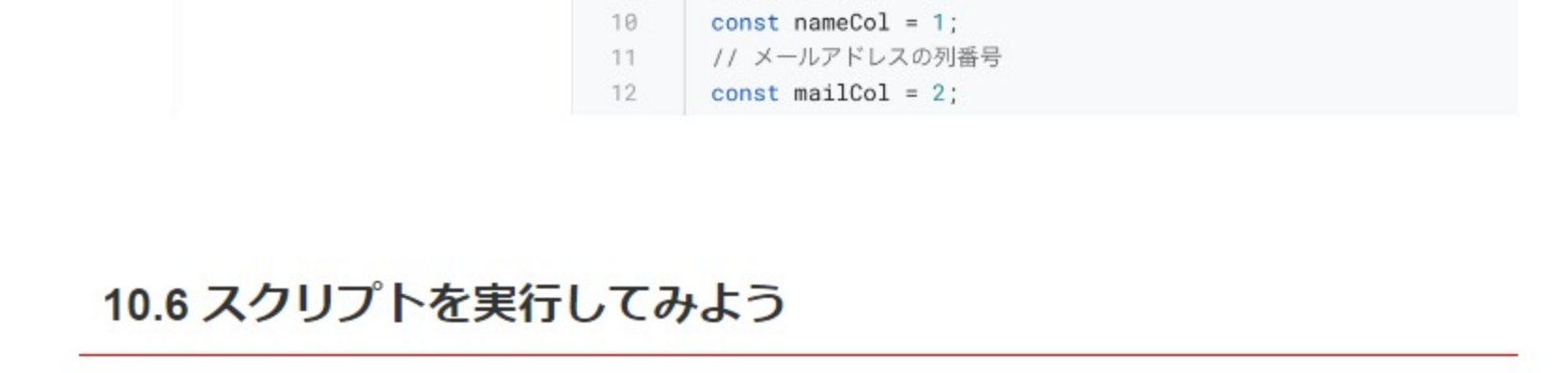
そこでfor文を用い、名前とメールアドレスを1ずつ取得し、顧客ごとに1メール本文を作成します。



(4) メールの送信

メールの送信には、GmailApp.sendEmail() メソッドを用います。

今回はGmailApp.sendEmail() メソッドの引数に送信先メールアドレス (to)、メール件名 (subject)、メール本文 (body) を指定します。



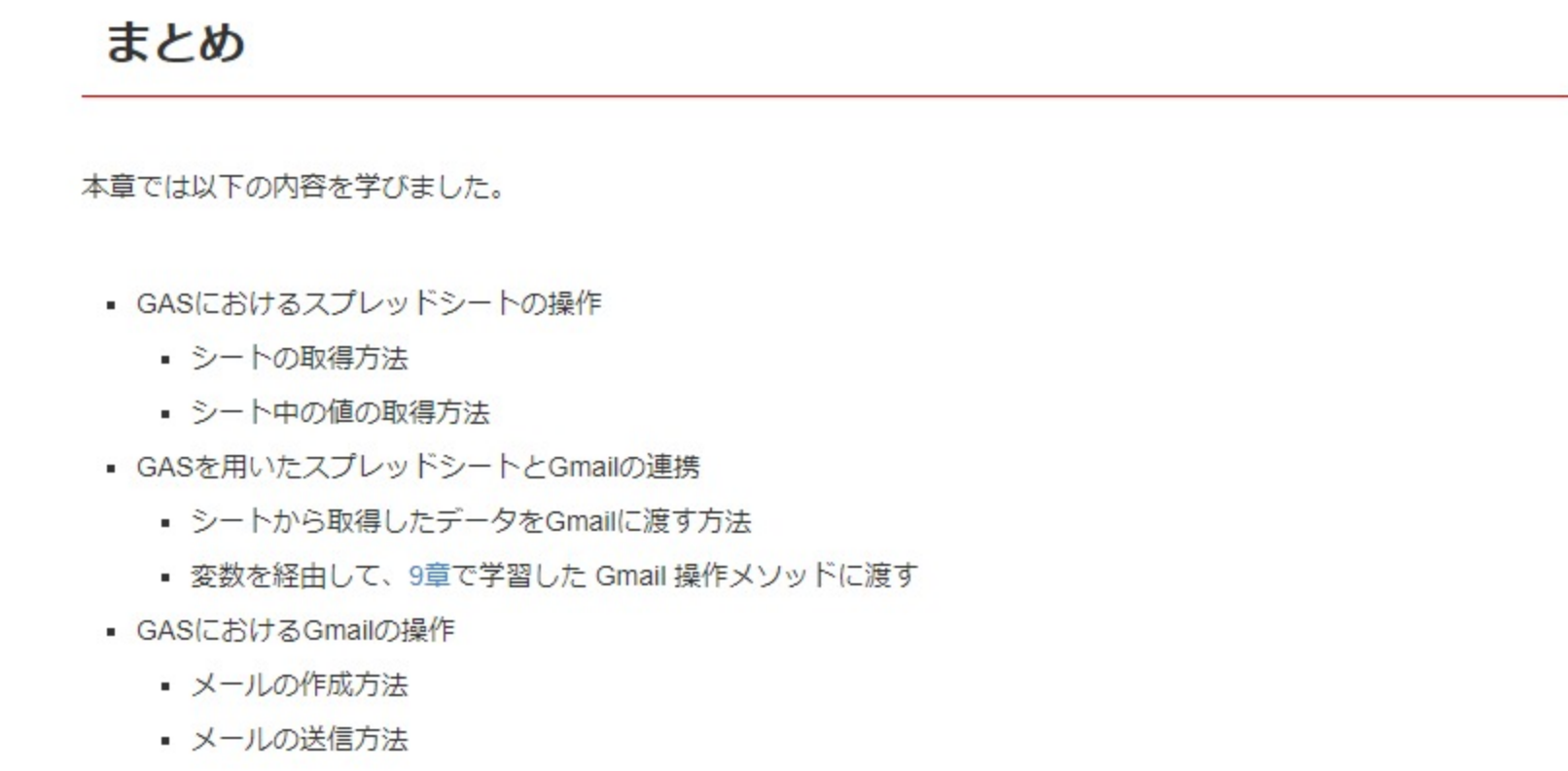
なお、メールの送信元はスクリプトを実行したアカウントのメールアドレスです。

スクリプト全体

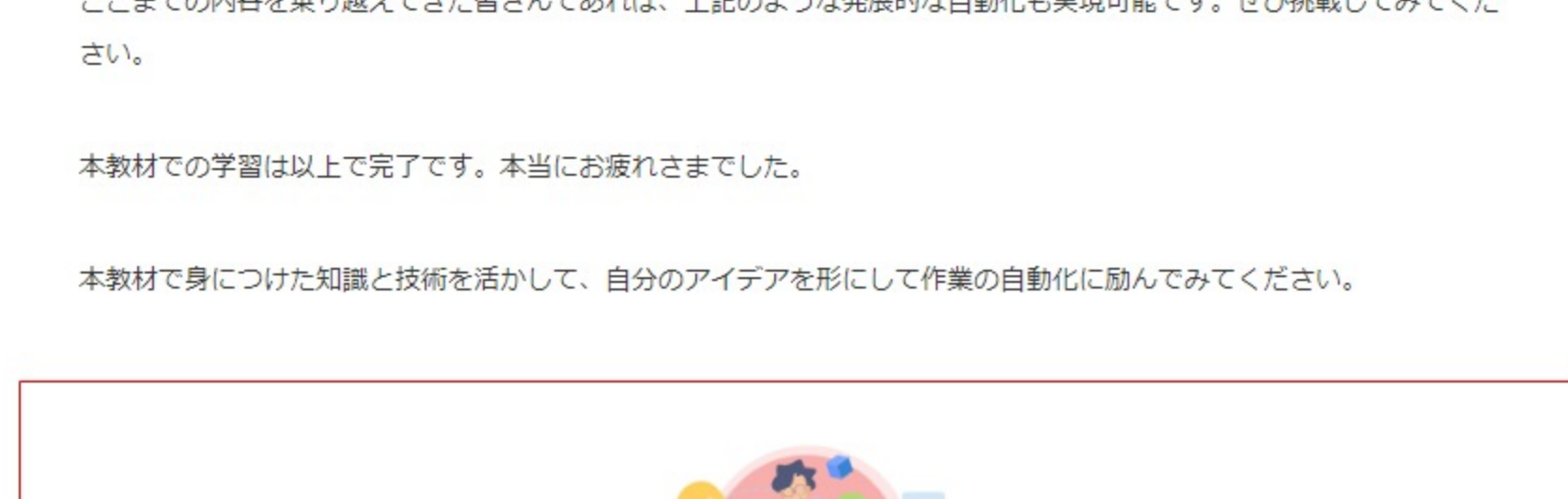
最終的なスクリプト全体は、下記ようになります。



スクリプト全体が確認できましたら、画面上部の「保存」をクリックしてください。



画面上部以下のような「実行ログ」が表示されたら、実行完了です。



最後に動作確認をしましょう。顧客リストに追加した自分のメールアドレスのアカウントにログインし、メールボックスを確認してください。以下のようなメールが届いているはずです。



本章の学習は以上です。お疲れさまでした。

本教材で身につけた知識と技術を活かして、自分のアイデアを形にして作業の自動化に動んでみてください。

理解度を選択して次に進みましょう

ボタンを押していただくと次の重に進むことができます

～50%

50～80%

80～100%